

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	人
② 算数	人
③ 理科	人

5 留意事項

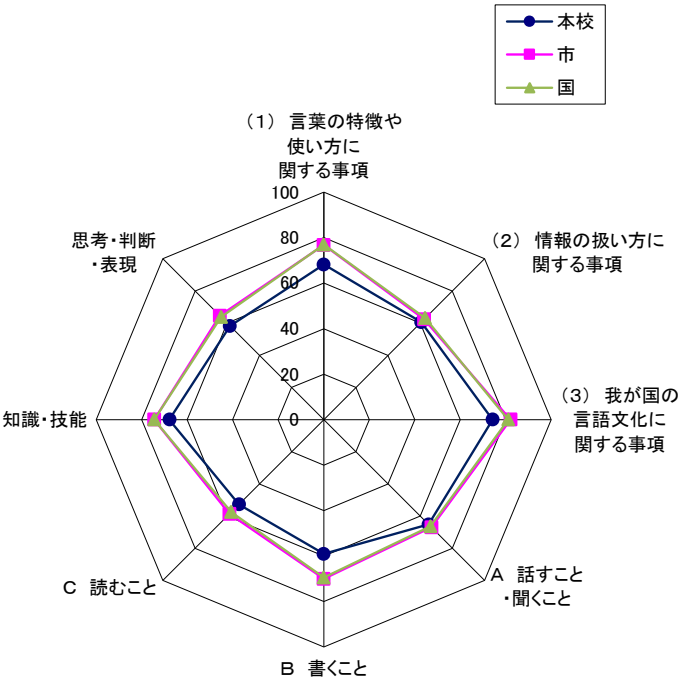
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.2	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	60.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	65.2	67.0	66.3
	B 書くこと	59.1	70.0	69.5
	C 読むこと	52.7	58.6	57.5
観点	知識・技能	67.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	58.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

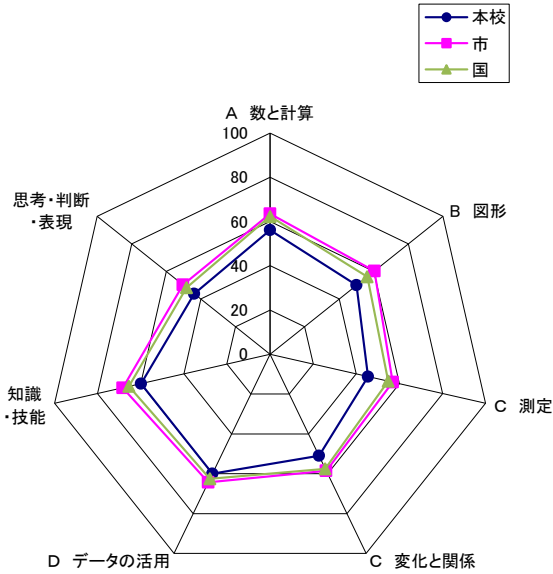
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は68.2%で国の平均より8.7ポイント、市の平均より8.5ポイント下回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、漢字の学習の定着に課題が見られる。	・文章の内容に合った漢字を選択し、正しく書くことができるよう、漢字の成り立ちや意味の理解を深めながら漢字の学習に取り組めるよう指導する。 ・言葉の特徴や使い分けの具体的な例を挙げることで、適切な言葉遣いを意識させていく。 ・漢字プリントやAIDリルを活用して定着を図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は60.6%で国の平均より2.5ポイントしたまわり、市の平均と同程度である。 ○情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる問題のように視覚的に整理した読み取りへの苦手意識は少ない。	・必要な情報を図やグラフ等の情報源から解釈する力が更に伸びていくように、ドリルやプリント学習を行いながら指導していく。 また、内容を整理し、自ら情報を図やグラフに起こしていく活動も取り入れることで、情報処理能力も付けていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は74.2%で国の平均より7ポイント、市の平均より7.9ポイント下回っている。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より7.9ポイント下回っている。	・物語に偏らず、様々なジャンルの書籍に慣れ親しむ機会を設けることで、説明文や資料から筋道を考えて読み取る力を付けていけるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は65.2%で国・市の平均と同程度である。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分析したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する問題では、市の平均正答率を1.5ポイント上回った。	・ペア学習やグループ学習による話し合いの成果が出てきていると思われる。引き続き、学習形態の工夫に取り組んでいきたい。 ・ワークシートを活用して、話し手の意図を捉えたり、自分の考えと比較したりする活動を取り入れたりすることで、「話すこと・聞くこと」に対する力を伸ばしていく。
B 書くこと	平均正答率は59.1%で国の平均より10.4ポイント、市の平均より10.9ポイント下回っている。 ●図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することをみる問題では、市の平均正答率を13.1ポイント下回っている。	・朝の「ぐんぐんタイム」を活用して、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章構成を考える活動を取り入れる。 ・読書後の感想文や日記等において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する活動を取り入れる。また、発表や質問のやり取りの場を設けることで、内容を深めていけるようにする。
C 読むこと	平均正答率は58.3%で国の平均より4.8ポイント、市の平均より5.9ポイント下回っている。 ○文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題においては、3.8ポイント市の正答率を上回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、23.7ポイント下回った。	・国語の単元以外の総合的な学習の時間など、他の教科での調べ学習における表やグラフ作成、また資料から必要と思われる内容を選択してまとめる活動を取り入れていくことで、情報処理能力を育てていく。 ・並行読書を通して、多くの読み物に触れる機会を設け、内容の相互関係や心情の読み解く力を育てる。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	56.1	63.6	62.3
	B 図形	50.0	60.4	56.2
	C 測定	45.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	51.0	58.6	57.5
	D データの活用	60.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	59.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	43.9	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

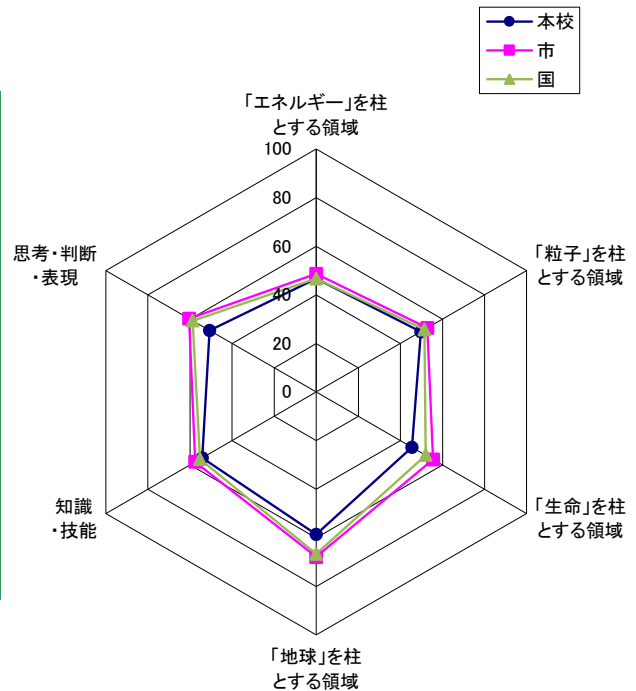
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は56.1%で、国の平均より6.2ポイント、市の平均より6.4ポイント下回っている。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より7.2ポイント上回っている。 ●異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より13.9ポイント下回っている。	○今後も、基本的な計算の定着に向け、反復練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・示された場面に適した考えを、式や言葉を使い説明できるようにペアやグループ活動での対話的な学びを授業の中に積極的に取り入れる。
B 図形	平均正答率は50.0%で、国の平均より6.2ポイント、市の平均より10.4ポイント下回っている。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より13.9ポイント下回っている。 ●角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、市の平均正答率より14.5ポイント下回っている。	・図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見出す力を育むため、授業の中で図形の観察や構成、作図などの活動を意図的に増やして、図形の見方を深める。 ・平面図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする活動を通して、特徴を理解できるようにする。
C 測定	平均正答率は45.5%で、国の平均より9.3ポイント、市の平均より11.4ポイント下回っている。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するための必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より7.7ポイント下回っている。 ●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より15.1ポイント下回っている。	・児童の身の回りの場面から、問題を想起する良さを実感させ、問題場面を工夫し、目的意識をもって主体的に考えられるよう工夫する。 ・繰り返しはかりの目盛りを読む活動を取り入れ、定着できるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は51.0%で、国の平均より6.5ポイント低く、市の平均より7.6ポイント下回っている。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率と同程度である。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より15ポイント下回っている。	・問題場面の数量の関係を捉えられるよう、図表やグラフに表し、視覚的に考えることができるよう指導していく。 ・話し合う学習を通して、ふさわしい理由や答えの導き方を伝え合い、筋道を立てて説明する力を育てるようにする。
D データの活用	平均正答率は60.0%で、国の平均より2.6ポイント低く、市の平均より4.4ポイント下回っている。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より6.4ポイント上回っている。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より6ポイント下回っている。	・データを二次元表や度数分布表に表したり、読み取ったりするを通して、データの要点を端的に捉えることができるようにする。 ・授業の中で意見を出し合う場を設けることにより、データを注意深く読み取る力や多面的・批判的に考える力を育む。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	45.5	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	58.6	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.2	57.5	55.3
	思考・判断・表現	50.7	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は46.6%で、国・市平均と同程度である。 ○アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質にあてはまるものを選ぶ問題では、市の平均正答率より3.3ポイント上回っている。 ●ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く問題では、市の平均正答率より10.3ポイント下回っている。	・単に答えを覚えるのではなく、「なぜそうなるのか」という因果関係を理解させるために、予想や実験、比較を通じて、論理的に考えられるように指導していく。 ・AIDリルの活用によって繰り返しの学習により知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は49.7%で、国の平均と同程度で、市の平均より3.1ポイント下回っている。 ○海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ問題では、市の平均正答率より2.2ポイント上回っている。 ●水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く問題では、市の平均正答率より10ポイント下回っている。	・実験を行う前に、結果の予想や仮説を立てる場面を十分にとっていく。 ・実験や観察の結果をじっくり考察させ、他者の気付きにも興味をもち、自分の意見を文章化させる活動を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は45.5%で、国の平均より6.5ポイント、市の平均より10ポイント下回っている。 ○ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題では、市の平均正答率より3.1ポイント上回っている。 ●レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く問題では、市の平均正答率より19.7ポイント低く、無回答率が30.3%であり、市の平均より19ポイント上回っている。	・動植物の観察や実験のまとめ、振り返りを十分にを行い、疑問に思ったことについて話し合う機会をもつ。 ・ベア学習などで、自分の考えを話したり、友達の考えを聞く場面を多く取り入れる。 ・結果に対して、「なぜ」という問いかけをして原因を深堀りさせ、新たな仮説を立てる学習場面を取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は58.6%で、国の平均よりも8.1ポイント、市の平均より9.3ポイント下回っている。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く問題では、市の平均正答率より15.2ポイント下回っており、無回答率が21.2%であり、市の平均より13ポイント上回っている。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識に関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、市の平均正答率より7.7ポイント下回っている。	・記述式問題に対して、要点を押さえた回答ができるよう、学習したことを活用し、必要な用語を使って簡潔に説明できるように指導していく。 ・日常生活での身近な例を挙げ、なぜそのような現象が起こるのかを考え、話し合う機会を設ける。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が98.5%で、県の平均より0.7ポイント、全国平均より1.3ポイント上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が75.7%で、県の平均より1.7ポイント、全国平均より5.1ポイント上回っている。いじめに関連する授業を行う等普段の学習や生活指導を行うと同時に、教育相談の充実や、全児童によるいじめゼロ標語作りやその掲示、児童会の企画委員による集会活動などを行ったことによって意識が高まった成果であると考ええる。

○「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が95.5%で、県の平均より5.2ポイント、全国平均より6.6ポイント上回っている。また、「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が97.0%で、県の平均より3.1ポイント、全国平均より4.6ポイント上回っている。学校内に、中庭の観察林、観察池等があり、豊かな動植物との触れ合いや昆虫などの飼育観察、豊富な実験等によって意識が向上したと考えられる。

●「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という質問に対して、「3時間以上」から「30分以上1時間以内」に取り組む児童の割合が、74.2%で、県の平均より13ポイント、全国平均より7.2ポイント下回っている。また、「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問に対して、「2時間以上」読書をすると回答した児童の割合は、7.6%で、県の平均より2.9ポイント、全国平均より1.2ポイント上回っている。それに対して、「全く読まない」と回答した児童の割合は、45.5%で、県の平均より17.4ポイント、全国平均より16.3ポイント上回っている。学習習慣の定着が不十分な児童が多い。引き続き、学年だよりや学級懇談会等での家庭への啓発や意欲が高まる課題の工夫をしていきたい。

●「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が68.1%で県の平均より14.1ポイント、全国平均より12.2ポイント下回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が68.2%で県の平均より19.3ポイント、全国平均より16.7ポイント下回っている。ペア学習やグループ学習などの話し合い活動を工夫して取り入れ児童主体の学習を充実させていく。

宇都宮市立御幸小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 音読活動の充実 朝の「ぐんぐんタイム」の実施 学習がんばり週間の実施 AIDリル、ステップアップシートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 国語では、内容を大まかに理解しつつも、文章にまとめて書くことに課題が見られる。また、漢字の学習においても繰り返しの学習により定着を図ってきたい。 算数においては、図形や数量測定に関する問いに課題が見られた。計算問題の学習の継続に加え、AIDリルやプリントを活用して、作図や変化を読み取る問題に慣れさせていきたい。
読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書、ビブリオバトルの実施 話し合い活動や学び合いの場の設定する 読書活動を通して、言語活動の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 国語「話す・聞く」においては、昨年度より実施している並行読書や学び合いの場によって、徐々に力が付いてきていると思われる。引き続き実施してきたい。 ワークシートなどの工夫により、更に話し合いに深まりがもてるよう支援することで、「話す」から「書く」ことへの指導にも繋げていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>目的に応じて文章と図形などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題において市の平均正答率を23.7ポイント下回っている。</p> <p>図形や測定に関する問題において市の平均正答率を10ポイント以上下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んで質問の意図に合った内容を書き出す学習に取り組む。 作図や図形の特徴の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なジャンルの読書活動を通して、読み取る力を養い、自分の考えや感想を書きまとめる。また、伝え合う活動を多く取り入れることで、表現力を伸ばし、自分の考えを深めるようにする。 学習用、復習用としての算数プリントを学年間、ブロック間で共有し繰り返し学習することで、基礎学力の定着を図る。